



香川県議会議員

植田まきの県議会ニュース

無所属
市民派



発行: 〒761-8078 高松市仏生山町甲449-2 TEL&FAX 087-889-0747 E-mail maki-u@ozzio.jp

旧県立体育館問題③ 解体差し止め裁判の途中なのに…

説明責任果たさず、 急いで解体着手！！

世界も注目☆
ニューヨークタイム
ズ紙に植田の訴え
も掲載されました

4月10日、県は、とうとう旧県立体育館の周囲の解体工事に着手した。

昨年、建築家らで作る「旧香川県立体育館再生委員会」（以下、再生委員会）が、土地と建物を買取り、公費をかけずに再生する提案を発表。保存・再生して欲しいと望む約5万筆を超える署名が集まり、国内外から歴史的建築の行方が注目されていた。しかし、近隣住民から工事への不安の声も上がる中、「危険だから解体」としか言わない県の姿勢を許していいのか？



ずさんとも言える解体設計

昨年12月、解体工事を合田工務店に8億4700万円で請負わす契約議案を県議会は賛成多数で可決した（植田を含め4名の議員が反対）。

年明け、解体工事の着手前に、施工業者が現地調査を実施し、アスベストを含んだ吹付け材が使用されていることが判



明したが、2023年から24年にかけて行った解体工事の実施設計ではアスベストの報告はなかった。本来であれば、この実施設計の段階で、アスベスト含有の報告がなされなければならないはずだ。

県議会での議論なし

解体工事の監理業務の入札不調、アスベスト検出、ずさんとも言える解体設計…問題が山積しているにもかかわらず、県は、「今年度（3月）中には、解体工事に着工」を主張し、その方針を変えなかった。

ちょうど新年度の予算を審議する2月定例県議会が始まったが、文教厚生委員会での質疑は、早期の解体を求める発言だけで、アスベストが検出されたことにより、解体工事費用や工期にどのような影響があるのか、また、監理業務の入札不調への対応など、県議会として教育長に質すことは一切なかった。

裁判所の判断前に解体の暴挙

3月には再生委員会が解体費用の支出差し止めを求める裁

判が始まった。

県は、3月下旬の三連休に近隣住民に対する説明会を実施したが、3時間半にも及び意見や質問が相次いだ。新たなアスベストや地盤沈下に対する近隣住民の不安があるにもかかわらず、再度の説明会は開催せず、1回で打ち切った。説明責任を果たすことなく、裁判所が証拠保全申請を認める前に解体を始める暴挙は許せない。

「倒壊の危険性はない」

県が、「倒壊する危険性の根拠」にしているのは、2012年の耐震診断の結果のみ。しかし、耐震診断を行った TANGE 建築都市設計の丹下憲考会長は、「耐震診断書では倒壊するとは言っていない。解体の根拠にされるのは残念」（去年9月）と語っている。再生委員会は、裁判の中で、「倒壊の危険性はなく、急いで解体する理由はない」とする複数の専門家の意見書を提出している。

しかし、知事定例会見（今年4/13）で記者から、「今後裁判の中で、急いで解体する必要がない耐震性能が立証された場合、取り返しがつかないのでは？」と質問されたが、知事はともに答えなかった。丹下会長が今年2月に知事に届けた書簡の「保存・再生を願う」という気持ちに知事は応えるべきだ。

県土木工事の談合問題との関係??

香川県発注の土木工事をめぐり、公正取引委員会は高松市内の建設会社約20社による談合を認定し、排除措置命令を出す方針を固めた（3/24報道）。談合認定の対象企業が、この解体工事にどう関わるのか?? 実態を解明し、県民への説明が必要だ。

皆さんが納めた税金の使い道 一緒に考えませんか??



2026年度の予算案について、知事は前年度に比べ254億円9300万円(5.1%)も増えた予算を提案した。県議会の中では、「高市首相になり、国が積極財政だから県も…」との発言も聞かれるが、県民の皆さんの貴重な税金の使い道について、何に使ってもいいわけではない。二元代表である県議会では、さまざまな視点からの検証が必要だが……

若者の奨学金返還支援 の拡大が実現!!

これまで植田が取り組んできた奨学金返還支援制度の見直しが実現した。「日本学生支援機構の奨学金」返還支援については、**第2種にも対象を広げ、定員、学部、就職分野の要件も撤廃**、さらに、「**県独自の奨学金**」についても**制度拡大**を行う。今後は①いかに制度を活用し、若者の教育機会の拡大に繋げていくのか、②県の政策目標である「香川で働いて、住んでもらえるのか」が問われていく。

一方で、若者の県外流出を防ぐ目的で、県立大学の設置に向けた検討が進んでいるが、「理系人材が必要、工学系の大学を」と言うだけで、研究や教育に対する理念やどのような大学をめざすのかといった基本的な議論がなく、これでは教員・研究者も集まらない。費用対効果や若者定着の検証がないまま、県立大学設置の議論が進むのは危険だ。

夜型観光の推進に 今年も！3.2億円も!?

県立アリーナ周辺での夜型観光推進事業として3億2000万円計上されており、今年度もプロジェクションマッピングとクリスマスマーケットを実施するとしている。



昨年行ったこれらのイベントでは、ハロウィン3.6億円、バレンタイン3.2億円、クリスマスマーケットに至っては33.4億円もの経済効果があったと、県は発表した。本当にこれだけの効果があるなら、貴重な税金の投入をやめて民間の取組みに移行していけばいい。そもそも、多額の税金が使われているにも関わらず、実行委員会の内情が不透明なままで、指摘されても改善されていない。

また、サンポート高松地区関連事業については、にぎわい創出のために多くの事業が予算計上されているが、投資総額も含め事業の全体像が不透明である(これに関しては3面で詳細説明)。

人口減なのに環状道路建設 新たに13.9億円、効果ある?

県は、「香川県幹線道路ネットワーク整備長期ビジョン」に基づき、国が進め、県も多額の事業費を負担することになる高松環状道路の整備に向けて進んでいる。しかし、人口減少社会が進む中、「高松中心部の渋滞解消」、「高松空港からサンポート高松との時間短縮、アクセス向上」などを理由にしつつ、肝心の費用対効果を県民に示せない過大な計画そのものを見直すべきだ。これに関連した空港連絡



道路の整備では、新たに中間南工区に着手する13億8800万円について、費用便益が低く事業の必要性が乏しいことから反対した。

どうする?? 県立高校

現在、「県立高校のあり方を検討する協議会」において、適正な学校の「配置」を協議し、今年度末に方針が出される予定だ。2月定例会県議会で、教育長は、「中・高の円滑な接続、連携を一層図るため、国内外のリーダーとして活躍する人材の育成をめざした**中高一貫教育校を高松地域に設置したい**」との考えを示し、一方で「生徒の学びのニーズの多様化に対応するため、**高校入試の学区の存在や日程、選抜方法について早急に見直しを行う**」と述べた。県内で2校目になる県立の中高一貫校だが、7年で募集停止した「高瀬のぞみが丘中学校」をどう評価するか等、多角的な検証が必要だ。

教育長の任命 同意に反対!



3年間の任期で、教育長が取り組んだ教育行政すべてを否定するわけではないが、旧県立体育館解体をめぐる問題について、所管する行政長としての姿勢に問題がありすぎた、と言わざるを得ない。

教育長は、旧県立体育館の建物の安全性について、2012年の耐震診断結果以外に建物全体が倒壊する明確な根拠を示さず、第三者による検証の必要性も否定した。さらに、「再生委員会」との2回の面談記録の公開を、情報公開条例で定めている期日を守らず、**公開を20日以上も遅らせた上、県側に致命的な内容を恣意的に隠蔽した**。このような情報公開の精神に反する姿勢は、議会軽視かつ民主主義に反しており、教育行政のトップとしてふさわしくない。

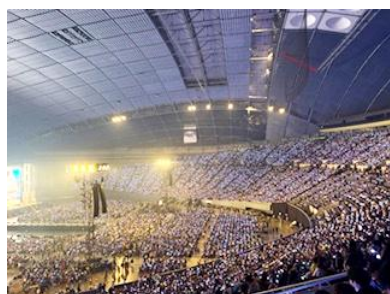
2月定例県議会は、「予算議会」だ。議員は知事から提案された予算案を審議し、最終的に賛成・反対の採決を行う。香川県議会では、重要な予算議会ですら、誰も賛否の「討論」をせず、植田一人だけ……他の議会では、知事与党であっても積極的に討論を行っているが、これが当たり前だと思う。各議員は県民のさまざまな意見を代弁して議論するために選ばれているはずだ。各自の視点で県政をチェックしたり、政策提案したりすることができる議員を増やす必要がある。県民の皆さんは、討論が少なすぎる議会の実態を知った上で、新しい議員候補を育てていって欲しい。



この春から娘は小6になりました!! 早いもので小学校生活最後の年です。娘は、Mrs. GREEN APPLE(ミセス)の「推し活」に一生懸命です。親としては、「この情熱を少しでも勉強に振り向けてくれたらいいのに・・・」と思うこともしばしば。でも、見方を変えたら、「推せること(人)」があるのは幸せなことなのかもしれません。

さて、娘はまだ小学生なので、その「推し活」に私も付き合われます。グッズは、お年玉をやりくりして購入していますが、かなりの競争率で当たった県外で開催されるライブを娘一人で行かせるわけにはいかないので、私も一緒に行くことになり、昨年、久しぶりにライブに行きました。最初は、人も多し、面倒だなあと思ってついて行っていたけど、会場に入り、実際に始まると、その熱気に圧倒されました。娘曰く、これが「推し活」の醍醐味だと。

楽しそうに「推し活」をしている娘を見ていると、「推し活」もいいものだと思えてくるようになりました。生活費までつき



込むような「依存」には注意しつつ、今からでも「推せること(人)」を見つけてみるのもいいかも!! でも、自転車操業の毎日ではその余裕がないなあ・・・(笑)

市議会や県議会のこと知って!!

市民派改革ネット 第45回 議会報告会

7月12日(日) 13:30～

@仏生山交流センター(ふらっと仏生山) 2F 会議室22

7月15日(水) 18:30～

@瓦町 FLAG8階 市民活動センター会議室

※両日とも無料、途中出入り OK



政策コンテストで 全国優勝!!

植田が議員をめざすきっかけになった「議員インターンシップ」。一人でも多くの若い人に議会を実際に見て、議員と接することで政治を身近に感じてもらえるのでは?との思いから、大学生を夏休みと春休みの年2回受け入れています。活動内容は、議会を傍聴したり、県や市の職員さんからレクチャーを受けたり、議会の外では、街頭でのニュース配布も経験します。



このような活動以外に、市長になったつもりで自治体の政策を作って発表するというドットジェイピー主催の政策立案コンテストにも参加しました。

なんと、私たちのもとの議員インターンを行った学生が、香川大会で優勝し、その後の全国大会でも優勝するという快挙を成し遂げました!!

テーマは、「離れても、繋がる。高松と。～人口を追うな、インパクトを追え～」です。今、やたらと、人口増やせ、移住・定住を促進しろと叫ばれていますが、それは狭い日本の中で人口を奪い合っているだけじゃないか?という問題意識から政策が展開されています。大学生である自分たちが直面している課題を「関係人口」に着目し、関係人口を増やすことで街や人を豊かにするというを身近な政策に落とし込み、実現性が高いことが評価されました。



学生からは、議員インターンの活動を通して、「議員の役割は単に政策を進めるだけでなく、行政のあり方を監視することにもあると感じた。特に、植田議員は、税金の使い道をチェックすることを重視しており、立場に関係なく議論することの重要性を強く意識していた」との感想。私は、自ら考えて行動できる主権者を育てるのも私たち大人の責任だと思い、今後も将来世代に寄り添った活動をしていきたいです。

植田まきプロフィール

- ★1975年、高松市仏生山町に生まれ育つ。
- ★香川大学大学院(教育学修士)修了後、スポーツ指導員や中学校講師(保健体育)を勤める。
- ★2003年、議員インターンシップが転機となり、27歳で高松市議に。一貫して政党・組織、宗教団体からの支援は一切受けない、「無所属・市民派」の立場で議員活動を行う。
- ★市議を2期務めた後、議会を離れ、立命館大学公共政策大学院で2年間学ぶ。再び市議に復帰し、通算4期務める。
- ★県議の海外視察・政務活動費裁判で勝訴。
- ★2023年5月～香川県議として活動。



Website



Facebook

活動費収支報告 2026年1月～3月		
収入	報酬 (810,000×3)	2,430,000
	計	2,430,000
支出	源泉所得税	259,700
	市町県民税	267,900
	国民年金保険料	50,940
	国民健康保険	408,600
	みどり・香川 (30,000×3)	90,000
	まっきー通信発行費	111,540
	議員活動費	365,974
	計	1,554,654
残高 (植田生活費・活動費へ)		875,346

※ひとりでも多くの方に、身近な政治に関心を持っていただきたく、朝の駅頭や昼・夕の街頭、またご自宅にポスティング etc・・・と手配りさせていただいています。お手元にタイムリーにお届けできない場合もありますが、ご了承ください。